

令和7年10月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名			世帯数	人 口			対前月増減	
				総数	男	女	世帯数	人口
1	千 種		6,168	9,578	4,780	4,798	△ 1	△ 12
2	千 石		4,354	7,051	3,535	3,516	△ 12	△ 14
3	内 山		6,094	8,299	4,449	3,850	41	60
4	大 和		3,777	6,786	3,383	3,403	△ 5	△ 8
5	上 野		7,601	15,386	7,511	7,875	12	13
6	高 見		7,740	13,581	6,496	7,085	1	△ 7
7	春 岡		7,586	11,431	6,073	5,358	△ 1	△ 4
8	田 代		11,553	22,022	10,536	11,486	12	29
9	東 山		10,480	18,891	9,239	9,652	18	△ 5
10	見 付		4,652	8,404	4,222	4,182	29	32
11	星 ケ 丘		3,615	6,820	3,023	3,797	13	32
12	自 由 ケ 丘		3,556	7,005	3,168	3,837	7	1
13	富 士 見 台		6,463	14,744	6,674	8,070	△ 12	△ 13
14	宮 根		3,880	7,880	3,624	4,256	26	27
15	千 代 田 橋		3,782	8,012	3,731	4,281	△ 1	△ 6
千 種 区 計			91,301	165,890	80,444	85,446	127	125
R6. 10. 1			89,938	165,482	80,305	85,177	105	69
対 前 年 比			1363	408	139	269	22	56
名 古 屋 市			1,194,796	2,338,873	1,147,886	1,190,987	1,648	1,009
愛 知 県			3,409,040	7,453,119	3,712,421	3,740,698	1,958	△ 789
(R7. 9. 1)								

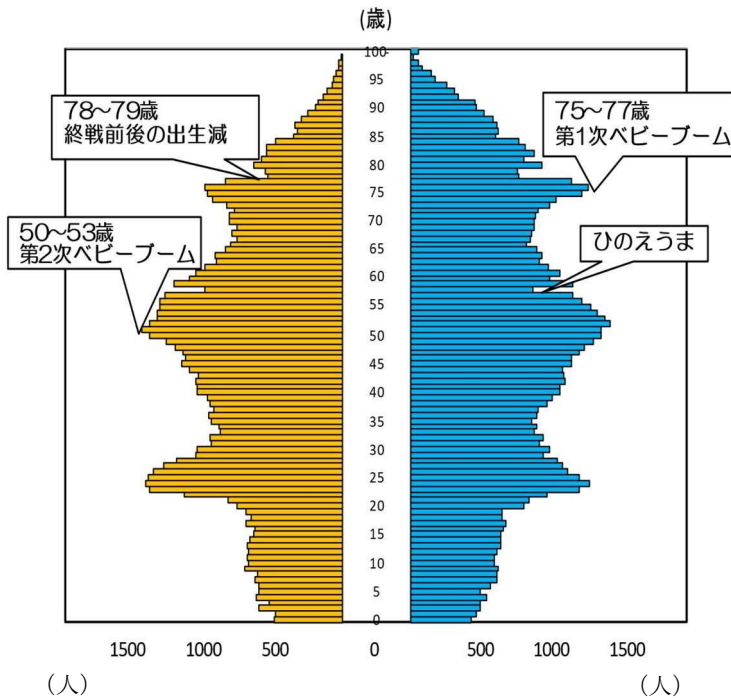
前月中の 増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	79	138	△ 59	1,087	903	184

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015		
平成7年	148,847	平成27年	164,696	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果を基礎とした本市独自の推計値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

千種区の年齢各歳別人口構成と年齢3区分別人口の推移

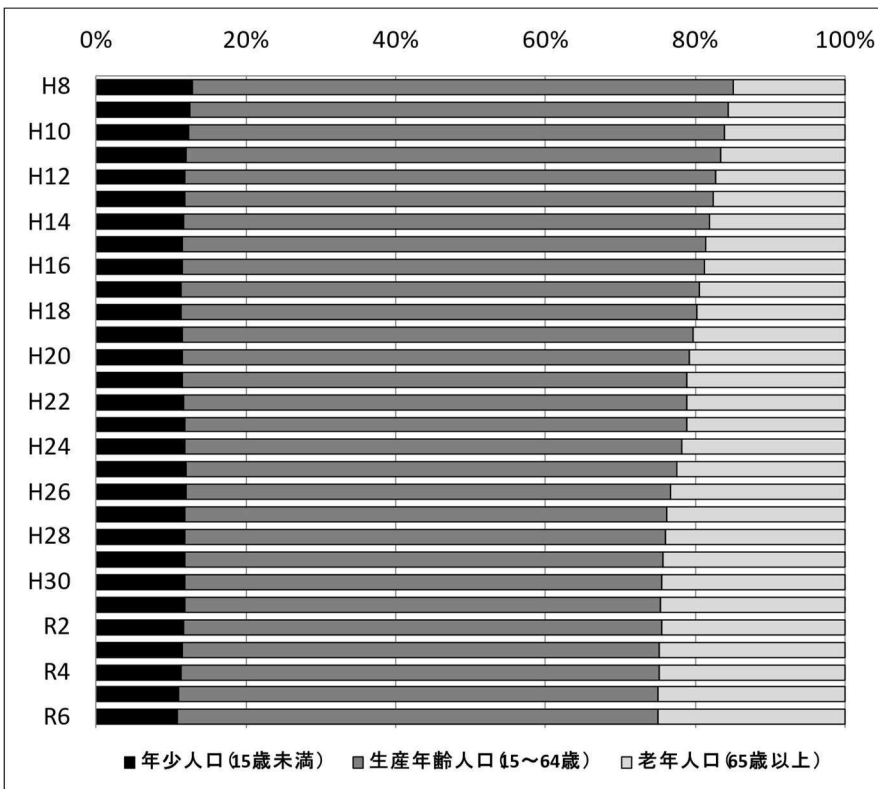
今回は令和6年愛知県人口動向調査結果に基づいて、千種区の年齢各歳別人口構成と、年齢3区分別人口の推移を見ていきます。



令和6年10月1日現在の千種区の人口を年齢各歳別人口構成でみると、78～79歳の年代は第二次世界大戦の影響によって、また56歳は「ひのえうま」の影響により人口が落ち込んでいます。

また、75～77歳は第1次ベビーブームの影響によって、50～53歳は第2次ベビーブームの影響によって大幅な出生増となっています。ここまでの傾向は、全国と同様の「ひょうたん型」の人口ピラミッドです。千種区の特徴として20～25歳の人口が多く占めています。これは、千種区に複数の大学が存在していることが影響していると考えられます。

図1:千種区の年齢各歳別人口構成（令和6年10月1日現在）



平成8年から令和6年の各年10月1日現在の年齢3区分人口の割合の推移を見てみます。平成8年と令和6年を比較してみると、年少人口（15歳未満）の割合は2.1ポイント、生産年齢人口（15～64歳）の割合は7.8ポイント減少したのに対し、老年人口（65歳以上）の3割合は10.1ポイント増加しました。

詳しく見てみると、年少人口の割合は平成12年まで減少傾向でしたが、以降はほぼ横ばいとなっています。生産年齢人口の割合は平成7年をピークに減少。老年人口の割合は増加を続けています。

図2: 千種区の年齢3区分人口の割合の推移（各年10月1日現在）